令和６年１月発行

やまがた 元氣 **農の風** NO.34

山形県新庄市

米の匠　みのりガーデン

五十嵐（いがらし）　成生（しげお）さん・恵利子（えりこ）さん

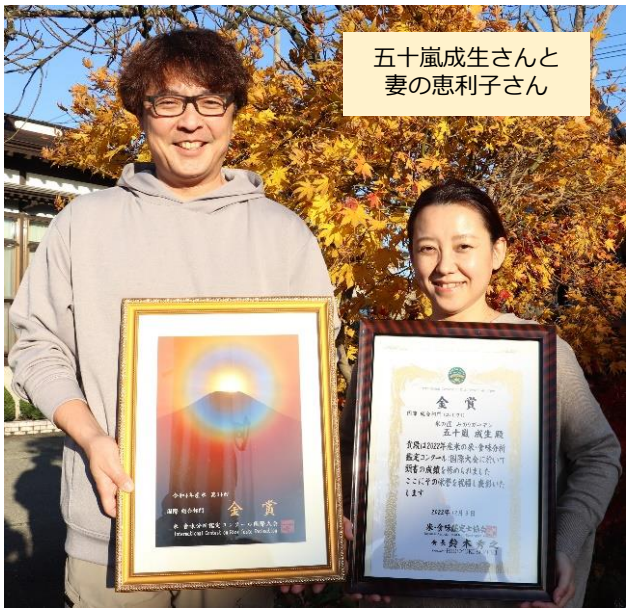
農薬や肥料を使わない**「自然栽培」**で
世界で一番おいしい米　を育てる匠

経営のきっかけ・こだわり・思いをお聞かせください。

山形大学教育学部を卒業後、塾講師をしていましたが、結婚を機に妻の実家に婿入りして就農し、江戸時代から続く米農家の８代目となりました。

農業は未経験で、水田管理や機械の使い方などは義父に教わりました。当初は慣行栽培のみでしたが「幼い子供に体に良い安全な米を食べさせたい」という思いから、平成22年に独学で自然栽培を学び、わずか10aのほ場から生産を始めました。

初年度は収穫すらできず、その後試行錯誤を重ねた結果として、除草は年３回～４回、農薬や肥料を使わず、わらだけをすき込んでいます。収量は低いものの、食味値（※）が85以上と高いため「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」へ出品するようになり、令和4年には、コシヒカリが金賞受賞。同年「世界最高米」に選ばれました。また、「お米日本一コンテストinしずおか」において、3品種（コシヒカリ、ゆうだい21、つや姫）が最高金賞や金賞を受賞するなど、身に余る光栄を頂戴いたしました。これを励みに、これからも「世界で一番おいしい米」を作り続けたいです。



五十嵐成生さんと
妻の恵利子さん

（※）米のおいしさを総合的に評価した数値

農業の魅力についてお聞かせください。

塾講師時代も今も、忙しさに変わりはありませんが、自然の中で心穏やかに自分のペースで仕事ができるのは、農業ならではの魅力だと思います。課題があっても対策を講じて良い結果を出せた時に喜びを感じますし、米作りを通じて出会った人との繋がりもありがたく、ずっと大事にしていきたいです。

ホームページやパッケージデザインは恵利子さんが担当。
こけしのイラストがかわいらしい米のペットボトル（左）も恵利子さんのアイデア。（写真提供：米の匠みのりガーデン）

米の匠 みのりガーデン http://minorigarden.seesaa.net/

今後の経営、目標や夢、将来展望をお聞かせください。

現在は、17haで水稲（つや姫、はえぬき、雪若丸、コシヒカリ、ゆうだい21、ヒメノモチ）を作付しており、うち1.2haが自然栽培です。委託される農地も増えてきたため、GPS付き自動運転田植機やドローンを活用し農作業の効率化を図っています。今後は、有機JAS認定の取得も考えています。いずれは、就農体験やグリーンツーリズムにもチャレンジしたいですね。

GPS付き自動運転田植機（写真提供：米の匠みのりガーデン）

東北農政局 山形県拠点 地方参事官室
TEL:023-622-7231